

偽女性解放者としての Paul Hover

肴 倉 宏

Paul Hover as a False Feminist

Hiroshi Sakanakura

抄 録

光と闇は、*The Prairie* を構成する重要な要素であるだけでなく作品のテーマを支える重要な意味も与えられている。光と闇は、それぞれ、善と悪を象徴的に示している。Paul Hover は、闇の象徴的な意味を理解できないし悪に蝕まれていることも自覚できない。その結果、彼は、物語の中で偽女性解放者の役割を果たしてしまうのである。彼が、偽女性解放者になってしまった原因は、Paul Hover が自分の魂の救済に無関心だったことにある。

キーワード：ジェームズ・フェニモア・クーパー、「大草原」、ポール・ホバー

(2000年8月31日 受理)

Abstract

The contrast between light and darkness constitutes both structural and thematic frames of *The Prairie*. Light symbolizes good while darkness symbolizes evil. Paul Hover does not understand the symbolic meaning of darkness, and is not aware of being possessed by evil. As a result, he plays the role of a false feminist in the narrative. The cause is to be sought in the fact that Paul Hover is indifferent to the salvation of his soul.

Key words: James Fenimore Cooper, *The Prairie*, Paul Hover

(Received August 31, 2000)

批評家たちは、James Fenimore Cooper の *The Prairie* (1827) に描かれている Paul Hover についてあまり論じていない。彼等は、Paul を Natty Bumppo や Ishmael Bush そして Duncan Uncas Middleton たちと比べると重要な役割を果たしていない影の薄い存在と考えているからであろう。彼等が Paul について論じるとしても、Paul の社会の中での位置に関して言及する程度である。Paul は、社会の上層階級と下層階級の間にいる中流階層に属していると論じられている。⁽¹⁾

しかし、光と闇から構成された舞台の中で *The Prairie* の Paul Hover を捉え直してみるとどうなるであろうか。光と闇から構成された舞台の中で捉え直してみると、Paul Hover は、象徴的な意味を与えられた新しい人間像として浮かび上がってくるように思えるのである。そして作品を構成する舞台は、重要な意味を持つてくるように思えるのである。

光は、作品 *The Prairie* の舞台を構成する重要な要素となっている。Cooper は、物語の第1章と最終章の第34章で夜の闇が訪れる直前に燃えるように輝いている夕日を描いた。このようにして、彼は *The Prairie* の物語を光の枠組の中に置いているのである。しかし、この作品で光が果たす役割は、作品を構成する要素として重要であるだけではない。それは、作品のテーマを支える重要な意味をも与えられている。Cooper は、夕日に示されている光が象徴的な意味を持っていることを示そうとしたのである。第1章で Cooper は、夕日の場面を次のように描いている。

The sun had fallen below the crest of the nearest wave of the Prairie, leaving the usual rich and glowing train on its track. In the centre of this flood of fiery light a human form appeared, drawn against the gilded background, as distinctly, and seemingly as palpable, as though it would come within the grasp of any extended hand. The figure was colossal; the attitude musing and melancholy, and the situation directly in the route of the travellers. But embedded, as it was, in its setting of garish light, it was impossible to distinguish its just proportions or true character. (14-15)⁽²⁾

Natty Bumppo は、小高い丘の上に立って燃えるように輝いている夕日を満身に浴びている。この場面にやってきた Ishmael Bush は、Natty Bumppo を照らし出している夕日の背後に自然現象を越えた宗教的な意味を読みとったのであろうか、一瞬、“superstitious awe” (15) に打たれて立ち止まってしまうのである。Cooper の作品における光の使い方に関心を寄せている Donald A. Ringe は、*The Prairie* の冒頭の夕日の場面に注目して “the light ... surrounds the trapper with a halo of light, and, in effect, almost sanctifies him.”⁽³⁾ と述べている。冒頭の夕日は、宗教的な意味が込められていると Ringe は指摘しているのである。

光に与えられた象徴的な意味は、最終章の第34章でさらに強調されている。死を目前にしている Natty Bumppo が、Duncan Uncas Middleton, Paul Hover, Pawnee 族の Hard-Heart たちに囲まれて夕日を見つめている。Cooper は、その様子を次のように描いている。

The trapper had remained nearly motionless for an hour. His eyes, alone, had occasionally opened and shut. When opened his gaze seemed fastened on the clouds which hung

around the western horizon, reflecting the bright colours and giving form and loveliness to the glorious tints of an American sunset. The hour—the calm beauty of the season—the occasion all conspired to fill the spectators with solemn awe. (385)

夕日が放つ光は、ここでは、Natty Bumppo をはじめとして夕日を見つめているものたちの心に畏敬の念を呼び起こしている。そして、それから間もなく、Natty Bumppo は両側を支えられながら立ち上がり、“with a fine military elevation of the head, and with a voice that might be heard in every part of that numerous assembly” (385)と描かれているように姿勢を正し大きな声で“Here!” (385)と応答している。夕日に示された光は、人間の全身全霊を持って応答しなければならない神的な存在を象徴的に示しているのである。

Cooper は、*The Prairie* の第1章と最終章で栄光に輝く夕日を描いた。そうすることによって、彼はこの作品を包む枠組を作り上げた。しかも、作品を包む枠としての光は、夕日が織り成す色彩的な美しさを強調するためではなく、明らかに神的な意味を帯びる象徴性を与えられているのである。

The Prairie の舞台を構成するもう一つの重要な要素は、闇なのである。Cooper は、物語の冒頭の夕日の場面に続いて、すなわち第1章後半から第6章にかけて闇の場面を描いた。闇は、光と同様に作品のテーマを支える重要な意味を与えられている。Cooper は、闇に与えられている意味を Siouxes 族を通して示している。“the Ishmaelites of the American deserts” (40)と描かれている Siouxes 族は、Natty Bumppo に“the miscreants!” (37)や“the thieves” (38)と言われている。彼等は、倫理的に腐敗している連中なのである。Cooper は、夜陰に紛れて獲物を求めて徘徊している Siouxes 族を“A band of beings, who resembled demons rather than men sporting in their nightly revels across the bleak plain” (37)と述べている。Siouxes 族は、人間というより悪魔に似ているというのである。このような連中を包み隠す闇は、悪の跳梁を許す象徴的な意味を与えられているのである。

闇に与えられている意味は、Siouxes 族の族長 Mahtoree を通して一層強調されている。Cooper は、Mahtoree を描くとき蛇のイメージをふんだんに用いている。たとえば、略奪を企む Mahtoree が Ishmael Bush 一家のキャンプに忍び込む様子は、次のように描かれている。

The progress of Mahtoree was now slow, and to one less accustomed to such a species of exercise, it would have proved painfully laborious. But the advance of the wily snake itself is not more certain or noiseless, than was his approach. (50)

Mahtoree は、ずる賢い蛇が音もたてず確実に獲物に近づくよりも巧妙に Ishmael のキャンプに忍び込むのだ。彼は、Ishmael Bush 一家の一人一人の顔を覗き込み寝静まっていることを確かめたうえで、キャンプの中を歩き回る。Cooper は、Mahtoree の様子を“he stalked through the encampment, like the master of evil, seeking whom and what he should first devote to fell purposes.” (53)と描いている。残忍な目的を遂げるための犠牲者を探している Mahtoree は、悪の化身なのである。Mahtoree の暗躍を許す闇は、倫理的腐敗を隠し悪の跳梁する象徴的な意味を与えられているのである。

Cooperは、まず初めに物語の舞台を設定した。彼は、象徴的な意味を帯びる光を物語の枠組として設定している。神的な意味を与えられた光の枠組は、その中に倫理的な腐敗を隠し悪の跳梁する恐ろしい闇を包み込んでしまうものなのである。このようにCooperが*The Prairie*の冒頭で見せる光の舞台は、これから繰り上げられる事柄に関する問題の中心が、光か闇に深い関わりを持つ問題であることを予表しているのである。冒頭の光の場面は、光が象徴的に表すものを信じるか、それとも闇の世界にとどまるかという倫理的な問題が、*The Prairie*の中心課題であることを暗示しているのである。

Paul Hoverが、光と闇から構成されている*The Prairie*の舞台に登場する。彼は、物語の第3章から登場する。この第3章は、Ishmael Bush一家が寝静まったあとの真夜中の場面である。Paulが真夜中に登場したのは、Ishmael Bush一家と共に旅をしているEllen Wadeと逢引するためなのである。Paulは、日中、Ishmael Bush一家のものたちに見つからないように大草原に点在する茂みに身を潜め、夜になると茂みから出てEllenと密会する。Cooperは、夜毎逢引きするPaulについて“*He had hovered around the moving family during the tedious period of their weary march, concealing himself by day, and seeking interviews with his betrothed, as opportunities offered ...*” (190)と述べている。Paulは、日中、茂みに身を隠しながらIshmael Bush一家の近くに付きまといEllenと会う機会を伺っている。そして彼は、夜になるとEllenと会うのだ。彼は、人の目に自分の姿を焼きつける日中の強い光を避け夜の闇を物理的な隠れ蓑として利用している。彼は、夜中に歩出く者なのである。こうして、Cooperは、Paulが象徴的な意味を与えられた光を避け倫理的腐敗を隠し悪の跳梁する闇の世界に属している人物であることを暗示している。

闇に対するPaulの姿勢は、Natty Bumppoとの対話を通して浮かび上がってくる。Natty Bumppoは、一緒にいる老犬Hectorの唸り声にただならぬものを感じ取り“*evil is nigh*” (36)とPaulに忠告する。彼は、闇が悪を覆い隠していることを鋭く見抜いて警告しているのだ。しかしEllenとの密会に夢中になっているPaulは、Natty Bumppoの忠告を聞こうとはしない。彼は、Hectorが夢を見ているのだらうと言って取り合わないのである。彼は、闇に潜む倫理的な悪よりもEllenとの逢引きのほうにより関心があるのだ。だが、Siouxes族の乗っている馬の蹄の音が識別できるほど近づいてくると、Paulは闇の中で響く物音に注意を向ける。そして彼は、Ellenに“*Hist! do you hear nothing? There are buffaloes playing their pranks at no great distance—That sound beats the earth like a herd of the mad scampering devils!*” (36)と言う。さらに彼は、耳を澄まししながら“*I am right! ... a panther is driving a herd before him ; or, may-be, there is a battle among the beasts.*” (36)と自信たっぷりに言う。Paulは、Siouxes族の馬の蹄の音を野牛の足音と聞き違い、しかも自信たっぷりに下した判断も間違っている。彼は、闇の中で物音の性質を識別し正確に判断する能力を持っていないのである。彼は、自分を包み込んでいる闇の性質を認識できないのである。実際、Natty Bumppoは、“*Your ears are cheats*” (36)と言ってPaulの認識能力のなさを指摘している。Paulは、闇に与えられている象徴性を理解できないのである。

Paul の闇に対する姿勢は、彼の Siouxes 族に対する姿勢を通してさらに強調されている。Natty Bumppo に “a bloody band of accursed Siouxes” (37) と言われた連中が目の前に迫ってくると Paul は、Natty Bumppo に “Siouxes or devils, they shall find us men! ... You have a piece, old man, and will pull a trigger in behalf of a helpless, Christian girl!” (37) という。彼は、Ellen を守るため男らしく戦うと言い張る。Natty Bumppo が草むらに身を隠せと忠告すると、Paul は、“Let us rather take to our feet, and trust to manhood!” (39) と答える。彼は、Siouxes 族を自分と同様に闇を物理的な隠れ蓑として行動するインディアンとみなしている。彼は、Siouxes 族を悪の化身 Mahtoree に操られ倫理的に腐敗した悪魔的な連中として理解できないのである。闇を物理的な隠れ蓑として利用する Paul は、自分が倫理的な腐敗を隠し悪の跳梁する闇の中にいることを認識できないのである。

闇の象徴性を認識できない Paul は、自分も悪に人間性を蝕まれている存在であることを自覚できない。物語の第25章に注目してみる。Siouxes 族の追跡を振り切って逃げた Paul は、この章で再び Siouxes 族に捕らえられている。彼は、恋人の Ellen の解放のために犠牲になっても構わないと思っている。彼は、自分のこの思いを Siouxes 族に通訳してくれるよう Natty Bumppo に頼む。実際、Paul は、Ellen の解放を願って Natty Bumppo に次のようにいう。

Harkee, old trapper ... you ar' skilled in Indian tongues, and know somewhat of Indian deviltries. Go you to the council, and tell their chiefs in my name, that is to say in the name of Paul Hover of the State of Kentucky, that provided they will guarantee the safe return of one Ellen Wade into the States, they are welcome to take his scalp, when and in such manner as best suits their amusements; or, if-so-be, they will not trade on these conditions, you may throw in an hour or two of torture, beforehand, in order to sweeten the bargain to their damnable appetites. (276)

Paul は、Ellen の解放のためならば肉体に加えられるインディアンの残虐な拷問を甘んじて受けると Natty Bumppo に言うのである。彼は、自分が受ける試練を肉体に加えられるものと理解している。しかし彼は、自分が受ける試練が悪にじわじわと蝕まれて人間性を喪失していくという魂に加えられる肉体的苦痛以上に恐ろしいものであることを認識できないのである。Paul は、自分が悪に囚われ蝕まれているという自覚を持たないのである。

Paul は、自己の人間性を蝕む悪の存在を自覚できない。けれども彼は、Ishmael Bush 一家が倫理的に腐敗していることを知っている。彼は、Ishmael が不法に他人の土地を占拠し追い立てようとした保安官を射殺したことを知っている。彼は、そのことを Natty Bumppo に次のように話す。

His own! ay, and that which is not his own, too! Can you tell me, old trapper, who held the rifle that did the deed for the sheriff's deputy, that thought to rout the unlawful settlers who had gathered nigh the Buffaloe Lick, in old Kentuck. I had lin'd a beautiful swarm that very day into the hollow of a dead beech, and there lay the People's Officer at its roots with a hole directly through the 'Grace of God', which he carried in his jacket

pocket, covering his heart, as if he thought a bit of sheepskin was a breast plate, against a squatter's bullet. (58)

Paul は、Ishmael 一家が犯罪行為を働いたという。Ishmael 一家の過去を知っている彼は、Ishmael の友人と呼ばれることを嫌うのである。Natty Bumppo が Ishmael 一家を知っている Paul に “Is your friend ... a man of spirit, enough ...” (58) と言うと、彼は、“Dont call the squatter a friend of mine!” (58) と強い調子で抗議する。彼は、倫理的に腐敗した Ishmael の友達とみなされることは心外なのである。彼は、Ishmael と比べると自分は倫理的に潔癖であると思っている。Paul は、自己の内にある悪には気が付かないけれど、他人の中に存在する悪には敏感に気付くのである。

Ishmael 一家の倫理的腐敗を指摘する Paul は、Ishmael Bush の幌馬車に隠されている秘密を暴こうとする。第9章の Paul と Obed Battius や Natty Bumppo の会話に耳を傾けてみることにする。Obed は、Ishmael の言うことを真に受けて “a decoy” (104) として用いられる動物が幌馬車に隠されていると信じ込んでいる。Obed のこの話を聞いた Paul は、“I, too, know something of that very wagon, and I may say that I have lined the squatter down into a flat lie.” (104) と言う。Ishmael Bush 一家の犯罪行為を知っている Paul は、Ishmael が真っ赤な嘘をついていると断言する。彼は、Natty Bumppo の “there is something dark and hidden in this matter.” (105) と言う言葉を聞いて Ishmael の嘘を確信する。そのうえ、第10章で Duncan Uncas Middleton から彼の新妻 Inez を誘拐された話を聞くと Paul は、Ishmael Bush の幌馬車に Inez が隠されているに違いないと思うようになるのである。そして彼は、Inez を解放するため Ishmael の砦に赴くのである。Paul は、砦の守備隊長の役割を Ishmael に任せられている Ellen に次のようにいう。

The whole truth is out, Ellen ... and we have lined the squatter into his most secret misdoings. We have come, to right the wronged, and to free the imprisoned, now if you are the girl of a true heart, as I have always believed, so far from throwing straws in our way, you will join in the general swarming, and leave old Ishmael and his hive to the bees of his own breed. (150)

Paul は、Ishmael の犯罪行為によって囚われている Inez を解放し正義を行うのだという。彼は、Inez ばかりでなく自分の恋人 Ellen も同時に解放するのである。Paul は、自己の内にある悪には気が付かないまま Ishmael Bush の倫理的腐敗の犠牲にされている女性たちを解放するのである。

Paul は、女性解放の闘士であるだけでなく悪の支配から人間を救い出す解放者の役を演じている。Ishmael Bush は、家父長的権威主義の体現者として描かれていた。実際、彼は、長男 Asa が反抗的な姿勢を示したとき “strength of the elephant” (12) を背景に父親の権威をちらつかせて “remember I am your Father, and your better.” (90) と脅して Asa を抑えつけている。Ishmael Bush 一家は、家父長的権威主義が支配し子供たちは父親の権威に絶対的な服従を要求されている。このように描かれている Ishmael Bush 一家からの Inez と Ellen の解放は、Ishmael に示されている男性中心の支配体制からの女性の解放

を意味している。Paul は、抑圧的な男性中心の支配体制から女性を救出する女性解放の闘士なのである。しかし、彼は、女性解放の闘士であるだけにとどまらない。Ishmael Bush は、目的のためには悪魔にさえ自分の魂を売る節操のない男としても描かれている。人間性を抑圧する Ishmael Bush の背後には、悪の化身 Mahtoree が潜んでいる。⁽⁴⁾ Ishmael に具現された家父長的権威主義は、悪の化身 Mahtoree に操られている社会制度なのである。Ishmael Bush 一家から Inez と Ellen を解放することは、男性中心の社会制度からの女性の解放だけでなく Ishmael の背後に潜んでいる悪からの人間性の解放をも意味している。Paul は、自分も悪に触まれていることを自覚しないままに家父長的権威主義とそれを背後から操っている悪から人間を解き放つ解放者の役割を果たしているのである。こうして Paul は、メシヤに与えられている権能を僭称しているのである。

解放者としての Paul は、第31章で Hard-Heart の前に立たされている。物語の第31章は、裁判の場面である。この場面で重要な役割を果たしているのは、Ishmeal Bush ではなく Hard-Heart である。⁽⁵⁾ Hard-Heart は、復活のメシヤであるだけでなく最後の審判のときの審判者としても描かれている。彼は、悪の化身 Mahtoree に完全に勝利することで悪と死から人間を解放しているのである。悪と死からの解放者 Hard-Heart が、第31章で審判者として現れすべての人の宗教的・倫理的行いを裁こうとするのである。第31章の裁判の場面は、最後の審判の場面を象徴的に描いているのである。Paul は、メシヤ Hard-Heart に裁かれているのである。彼は、自分が悪に触まれていることを自覚できなかった。それでいて彼は、他人の中にある悪を指摘しそれを指弾する。彼は、悪に触まれているにもかかわらず自分が倫理的に潔癖であると錯誤しているのである。彼は、自己の内なる悪を自覚しないまま家父長的権威主義とそれを背後から操っている悪からの解放者の役割を果たすのである。彼は、メシヤを僭称しているのである。Paul のメシヤの如く振る舞う思い上がった行為が、審判者としての Hard-Heart の前で明らかにされ裁かれているのである。家父長的権威主義とそれを背後から操っている悪からの女性解放者であると自認している Paul が、メシヤ Hard-Heart に裁かれている。Paul は、実は、えせ女性解放者なのである。

Paul がえせ女性解放者を演じてしまった原因をさらに究明するためには、Paul と Natty Bumppo の関係に注目してみる必要がある。Natty Bumppo は、*The Prairie* では畏師として描かれている。畏師は、高齢になり体力の衰えた Natty Bumppo の生計を支える職業であるばかりでなく、象徴的な意味をも与えられている。Natty Bumppo は、メシヤ Uncas と Hard-Heart の死と復活について語る伝道者であるばかりでなく聖餐式の執行者としても描かれている。⁽⁶⁾ 彼は、Chingachgook と Uncas の係わりに描かれた愛する独り子を犠牲にしてまで人間を悪より救い出そうとする神の愛、Hard-Heart の復活にみられる死からさえ生を造り出す神の豊かな創造力そして終末の接近について語り、荒野であった人々や老犬の Hector を聖餐式に招くのである。⁽⁷⁾ 彼は、神や人間そして自然との交わりを深める宗教的な人間なのである。このような Natty Bumppo に対する Paul の態度は、Paul の宗教的な真理に対する姿勢を示すことになるのである。

Paul は、第3章で Natty Bumppo に会うのである。Ellen と会えると思っていた Paul は、Ellen が Natty Bumppo といるのをみて驚くのだ。彼は、Natty Bumppo が Ellen を誘拐しようとしているのではないかと疑うのである。実際、彼は “And you got this young woman to show you the way, because she knows it so well and you know so little about it yourself.” (30) と皮肉っぽく言う。しかし Ellen が Natty Bumppo を “this honest trapper” (31) と紹介すると、彼はすぐに誤りを認めて “Trapper! is he then a trapper! Give me your hand, father; our trade should bring us acquainted.” (31) と言って Natty Bumppo に握手を求めてくる。“the bee-hunter” (35) を職業にしている Paul は、蜂と野獣の違いがあるとしても蜂蜜採取家と罌師が獲物をとる職業に従事しているのに変わりがないと思い Natty Bumppo に親しみを覚えるのである。しかし、このことから直ちに、Paul が Natty Bumppo に与えられている象徴性を理解していると断定することはできない。

Paul が Natty Bumppo の象徴性を理解しているかどうかを知るためには、もう少し Paul と Natty Bumppo の会話に耳を傾けてみる必要がある。Paul は、“I scorn a shotgun!” (32) と豪語するように一発で目当ての獲物を仕留める射撃の腕を誇りにしている。射撃の腕は、Natty Bumppo にとっても重要な意味をもっている。それは、Natty Bumppo にとって生計を支える手段であるだけでなく象徴的な意味を持っている。射撃の腕は、自然を通して宗教的な啓示を読みとる能力を象徴的に表しているのである。*The Last of the Mohicans* の Natty Bumppo は、自然に啓示を読む能力を若き日に自らの中に培ってきたのである。⁽⁸⁾ 彼は、この能力を年齢と経験とともに積み重ねてきて初めて大草原の真っ只中でメシヤ Uncas と Hard-Heart の死と復活を語る伝道者に成り得たのである。射撃の腕は、Natty Bumppo にとって伝道者になるための不可欠の条件なのである。Natty Bumppo は、射撃の腕を誇る若き Paul に自分と同じ伝道者になることを期待したのであろうか春秋に富む Paul を祝福して “Ay ay; you have a long, and a happy—ay, and an honest life afore you!” (32) という。そして続けて彼は、“... tell me; how do you part with the peltry?” (32) と Paul に尋ねる。Natty Bumppo のこの質問に対して Paul は、意外な感じを受けながら次のように答える。

With my pelts! I never took a skin from a buck, nor a quill from a goose, in my life! I knock them over, now and then, for a meal, and sometimes to keep my finger true to the touch; but when hunger is satisfied, the Prairie wolves get the remainder. (32)

Paul は、飢えを満たすためかさもなくば射撃の腕を鈍らせないための練習に鉄砲を撃つのである。彼は、射撃の腕を趣味と実益をかねた遊びに過ぎないものと考えている。彼は、射撃の腕を伝道者になるための不可欠の条件と理解できないのである。射撃の腕に与えられている象徴性を理解できない Paul は、Natty Bumppo に与えられている象徴性を理解できないのである。彼は、Natty Bumppo を経験豊かな老罌師としては尊敬する。しかし Paul は、Natty Bumppo をメシヤ Uncas と Hard-Heart の死と復活について語る伝道者として理解できないのである。

Paul は、Natty Bumppo を聖餐式の執行者としても理解できない。第9章の野牛の肉を

食べる場面は、荒野における聖餐式を象徴的に描いた場面なのである。⁽⁹⁾ この場面で Natty Bumppo は、聖餐式の執行者の役割を果たしている。彼は、荒野における聖餐式と開拓地における食事の違いを Paul に次のように説明する。

Do you know the difference between the cookery of the wilderness and that which is found in the settlements? No ; I see plainly you don't, by your appetite ; then I will tell you. The one follows man, the other natur'. One thinks he can add to the gifts of the Creator, while the other is humble enough to enjoy them ; therein lies the secret. (97)

Natty Bumppo は、荒野における聖餐式を神の与えた恵みを謙虚に味わうことだと説明する。ところが Paul は、Natty Bumppo の言葉に耳を傾けるどころか夢中になって野牛の肉を貪っている。実際、Cooper は、“Paul, who was very little edified by the morality with which his associate saw fit to season their repast” (97) と描いている。Paul は、食することの象徴的な意味を見落とし美食に舌鼓を打つだけである。彼は、Natty Bumppo を新鮮な食材を用いておいしい料理を提供する腕の立つ料理人として尊敬するものの聖餐式の執行者として理解することができないのである。

Natty Bumppo の象徴性を理解できない Paul は、自分の職業を金儲けの手段として考えている。彼は、蜂蜜採取業に従事している。彼は、その仕事について “I keep to my calling ; which pays me better, than all the fur I could sell on the other side of the big river.” (32) と Natty Bumppo に言っている。Natty Bumppo も、Paul の職業が分かると、“A bee-hunter! ... It pays well in the skirts of the settlements, but I should call it a doubtful trade in the more open districts.” (32) と言う。蜂蜜採取業は、猟師や毘師として毛皮を売るよりもっとお金になる職業なのである。優れた射撃の腕をもっているにもかかわらず Paul が猟師や毘師ではなく蜂蜜採取業を職業としたのは、何よりも儲かるからなのである。彼の職業選択の仕方は、Natty Bumppo の職業に対する姿勢と対比されている。Natty Bumppo は、猟師や毘師を生計を立てる手段であると同時に神に仕える道としても理解している。彼は、職業と宗教的使命を結び付けているのである。Natty Bumppo にとって職業と倫理は、切っても切り離せない密接な関係をもっているのである。しかし、Paul は、蜂蜜採取業を金儲けの経済的な手段と考えるけれども神に仕えるという宗教的・倫理的使命を意識していない。彼は、経済的行為と倫理を別物と考えるのである。経済的行為と倫理の乖離に何の違和感も感じない Paul は、自然の恵みを浪費してしまうのである。実際、彼は、野牛の肉を食べながら “I tell you, trapper ... That, every day while we are in this place, and they are likely to be many, I will shoot a buffaloe and you shall cook his hump!” (97) と Natty Bumppo に言う。Paul の言葉を聞いた Natty Bumppo は、“I cannot say that I will be a witness and a helper to the waste of killing one daily.” (97) と Paul を諷める。Paul は、Natty Bumppo の忠告を聞くどころか “The devil a bit of waste shall there be, old man.” (97) と行って開き直っている。職業と倫理を切り離して考える Paul は、自然の恵みを浪費することに痛みを覚える繊細な感受性を持ち合わせていないのである。

職業と倫理を切り離し利益を上げることに夢中になる Paul は、人間関係をも損得勘定

でみるのである。第10章の Paul と Middleton の関係をみることにする。Middleton がやってくる、Paul は、まず最初に彼に “Harkee, stranger ... do you understand lining a bee, from this open place, into a wood, distant, perhaps a dozen miles.” (108) と質問する。彼は、同業者かどうか確かめようとしているのだ。Paul の質問に Middleton が “The bee is a bird, I have never been compelled to seek” (108) と答えると、Paul は “Let us cross fingers. You and I will never quarrel about the comb, since you set so little store, by the honey.” (109) という。彼は、職業上利害が対立しないことを確認してから Middleton と友達になるのだ。彼は、友情を結ぶにしても計算ずくめなのである。Paul の打算的な態度は、Obed との関係を通して示されている。彼は、二人が一緒に過ごしたことを次の様にいう。

We tarried together a week, as you may remember ; you at your toads and lizards, and I at my high holes and hollow trees. And a good job we made of it, between us! I filled my tubs with sweetest honey I ever sent to the settlements, besides housing a dozen hives ; and your bags was near bursting with a crawling museum. (100-101)

Paul は、博物学者 Obed と利害が対立せず互いに生産的な仕事ができたと喜んでいる。彼は、利害が対立しないときは和気あいあいとしてるが対立しそうになると感情をむき出しにする。Obed が野牛を食べているところにやってくるのが見えると、Paul は貪るように腹に詰め込む。彼は、分けまいが少なくなると心配するからである。Cooper は、Paul の様子を次のように描いている。

the bee-hunter, instead of suspending his operations, rather increased his efforts, in a manner which would seem to imply that he doubted whether the hump would suffice for the proper entertainment of all who were now likely to partake the delicious morsel. (98)

Paul は、野牛の肉を独り占めしようとして急いで腹に詰め込む。一見すると気さくに見える彼は、人間関係を結ぶにしても利害や損得を天秤にかけて結ぶのである。Paul は、深い信頼関係に基づいた人間関係を構築しないのである。

Paul は、Natty Bumppo に与えられている象徴性を理解できなかった。彼は、Natty Bumppo をメシヤ Uncas と Hard-Heart の死と復活について語る伝道者であると同時に聖餐式の執行者として理解できない。このような彼は、職業と倫理を切り離し利潤の追求にうつつを抜かす。その結果、彼は、美食を味わうためならば自然の恵みを浪費することも何とも思わないのである。彼は、多くの人と交際をする社交家のように見えるが利害や損得を計算している。彼は、皮相な人間関係で満足している。Allen M. Axelrad は、Paul を “moral integrity”⁽¹⁰⁾ を持っている人物と評している。むしろ、Paul は、“moral integrity” を持ち併せていない人物と考えられるべきであろう。Paul は、宗教的・倫理的なことに無関心な世俗的で享乐的な若者なのである。

世俗的で享乐的な Paul を考えるとき見落としてはならない重要なことは、物語の時代背景である。Cooper の *The Prairie* は、1805年に設定されている。設定された時代のわず

か数年前の1801年に Kentucky 州 Bourbon Country の Cane Ridge でアメリカの教会史上の重要な出来事が起こっている。Sydney E. Ahlstrom は、Cane Ridge での出来事について次のように述べている。

The most important fact about Cane Ridge is that it was an unforgettable revival of revivalism, at a strategic time and a place where it could become both symbol and impetus for the century-long process by which the greater part of American evangelical Protestantism became “revivalized.” The organized revival became a major mode of church expansion—in some denominations the major mode. The words evangelist and evangelism took on this connotation. A second consequence of this historic camp meeting and the great revival which swept across Kentucky, Tennessee, and southern Ohio during the next three years was the vitality which it poured into the participating churches. The future of the country’s denominational expansion was in large part determined by the foundations laid during this period. ⁽¹¹⁾

Ahlstrom は、1801年の Cane Ridge での「信仰復興運動」が近隣の州に広まっただけでなくほぼ一世紀にわたってアメリカのキリスト教を活性化するきっかけになったという。Kentucky 州 Cane Ridge での「信仰復興運動」が、第二回目の「大覚醒運動」の先駆けになったのである。

Paul は、Kentucky 州出身である。彼は、愛郷心の強い若者として描かれている。彼の愛郷心の強さは、事あるごとに Kentucky 州を引き合いに出して言うことに示されている。たとえば、彼は、“the largest butcher in all Kentucky” (32) よりも野牛の肉をさばいたと自慢するし、飼っていた犬についても “I had a pup of my own in Kentucky” (35) という、さらに口笛を吹くにしても “he began to whistle the Kentucky hunters” (172) という具合である。彼は、同郷の Ishmael Bush 一家を嫌うけれども Kentucky 人は勇敢だと誇らしげにいう。実際、彼は、Natty Bumppo に次のように話す。

Look here, old trapper. Few men love Ishmael Bush and his seven sledge-hammer sons, less than one Paul Hover, but I scorn to slander even a Tennessee shot-gun. There is as much of the true stand-up courage among them, as there is in any family, that was ever raised in Kentucky, itself. (42)

Paul は、Kentucky 人はだれでも正々堂々と戦う勇気をもっているという。彼は、Kentucky びいきなのである。しかし彼は、Kentucky 州から広まった「信仰復興運動」に関することは一言も語らない。Kentucky びいきの Paul なら、アメリカの教会史上の重要な出来事を誇らしげに語ってもよさそうなはずだが、彼は、「信仰復興運動」に関して何も話さない。彼の沈黙は、Paul が「信仰復興運動」に無関心であったことを示している。職業と倫理を切り離して利潤の追求に没頭している Paul は、「信仰復興運動」に関心をもっても金儲けにつながるとおもえなかったのであろう。彼は、「信仰復興運動」よりも蜂蜜を採って売りさばいたほうが経済的な成功に結び付くと考えたのであろう。金儲けを求めている Paul は、自分の魂を蝕んでいる悪の存在やそれからの救済に関心を示さないので

ある。魂の救済に関心を示さない Paul が、Inez と Ellen を Ishmael Bush 一家から物理的に解放できたとしても、悪に人間性を蝕まれ形骸と化した存在にみなぎる生命力を吹き込み人間性を回復させることはできないのである。Paul が偽女性解放者になってしまった原因は、魂の救済に無関心であったことにある。

注

- (1) Henry Nash Smith *Virgin Land: The American West as Symbol and Myth* (New York: Vintage Books, 1950) 74-75, Richard Chase *The American Novel and Its Tradition* (New York: Doubleday Anchor Books, 1957) 59, Donald A. Ringe *James Fenimore Cooper* (New Haven: College and University Press, 1962) 45, Wayne Fields "Beyond Definition: A Reading of *The Prairie*," in *James Fenimore Cooper: A Collection of Critical Essays*, ed. by Wayne Fields (Englewood Cliffs: Prentice-Hall, Inc., 1979) 101, William P. Kelly *Plotting America's Past: Fenimore Cooper and The Leatherstocking Tales* (Carbondale: Southern Illinois University Press, 1983) 106, Robert Emmet Long *James Fenimore Cooper* (New York: A Frederick Ungar Book, 1990) 73, Geoffrey Rans *Cooper's Leatherstocking Novels: A Secular Reading* (Chapel Hill: The University of North Caroline Press, 1991) 153-154
- (2) James Fenimore Cooper *The Prairie; A Tale* (Albany: State University of New York Press, 1985) 本論文中の作品からの引用は、全てこの版による。なお() ないの数字は、そのページを示す。
- (3) Donald A. Ringe *The Pictorial Mode: Space and Time in the Art of Bryant, Irving and Cooper* (Lexington: The University of Kentucky, 1971) 109
- (4) 拙論「偽審判者としての Ishmael Bush」大阪女学院短期大学紀要第30号(2000) 97-108
- (5) 拙論「荒野における聖餐式」大阪女学院短期大学紀要第28号(1998) 115-127
- (6) 拙論「Natty Bumppo と Hector: 人間と自然の新しい関係」大阪女学院短期大学紀要第29号(1999) 69-83
- (7) *The Last of the Mohicans* における Chingachgook, Uncas, Natty Bumppo と彼等の関係に関しては、拙論「Cora Munro の死の意味」大阪女学院短期大学紀要第24・25号(1995) 77-87, 拙論「Chingachgook と Magua—クーバーの神義論」大阪女学院短期大学紀要27号(1997) 53-62, 拙論「Glenn's の彼方へ—Cooper の救い—」大阪女学院短期大学紀要第24・25号(1995) 109-120で論じている。
- (8) 拙論「Glenn's の彼方へ—Cooper の救い—」大阪女学院短期大学紀要第24・25号(1995) 109-120
- (9) 拙論「荒野における聖餐式」大阪女学院短期大学紀要第28号(1998) 115-127
- (10) Allan M. Axelrad *History and Utopia: A Study of the World View of James Fenimore Cooper* (Norwood: Norwood Editions, 1978) 121
- (11) Sydney E. Ahlstrom *A Religious History of the American People* (New Haven: Yale University Press, 1973) 435, Dickson D. Bruce, Jr., *And They All Sang Hallelujah: Plain-Folk Camp-Meeting Religion, 1800-1845* (Knoxville: The University of Tennessee Press, 1995) 52-53